

<今日の聖書から>

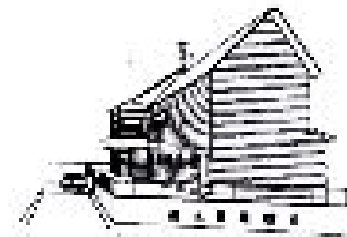
【ストレートに】“子どもたちは止めなさい”と制止した弟子達に対して、イエスは憤って“くるままにしておきなさい。神の国はこのような者の為(10:15)”と仰ったことについて先週学びました。裁いてしまった弟子のあり方を中心に見ました。ちょっと想像してみましょう。このような出来事は、初めの頃の教会でも取り上げられ、皆に語られていたということです。関わった人々も、最初の頃の教会でこの話を説教として、聞いていました。“とことん思い知らされた主の教えの確かさ”がこのような経験者によって伝えられたのです。今朝の箇所から、まずストレートな“そのままの願い”についてみてみましょう。10:46に描かれているバルテマイという盲人の乞食ですが“ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんでください”と言っています。今の英語と同じようにギリシャ語でも“あわれむ”というのは命令の形になっています。ストレートな願いを、そのまま申し上げているのです。日本語ではこんな時、なかなか命令形などは使いません。そんな文化なのですが、“おくゆかしい”のかもしれませんが、ストレートな願いは隠すのです。持って回った言い方をしたり、面白くない理由を一杯語ったりすることってないでしょうか。先週の子供たちのように、バルテマイも救いに関して包み隠すこともなく、真剣に求めました。“あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい(ピリピ4:6)”とパウロは教えています。

【他人のこと】49節で“喜べ、立て、おまえを呼んでおられる”と言っている人達は、実は主イエスに呼ばれていないのです。つまりどんなに救いに近くいても、救いの出来事には関わっていないということになります。ところがバルテマイは、救いを真っ只中で経験しました。“わたしに何をしてほしいのか(10:51)”という問いに答えたからです。

【いま答えましょう】“イエス様でも出来ないでしょう”、“信じたからといって・・・”と思ってしまうと、主イエスによる解決から離れていくことはないでしょうか。絶大な救いの証しを知り、“おまえを呼んであられるぞ”ということは人に言っても、自分は答えない時、神の国は遠くなるのではないのでしょうか。このバルテマイは、主について行きました(10:52)。“行け”と言われたのに従いました。おそらくこの人も、信仰者の群れの中で証をしたでしょう。“私は信仰によって救われました”と説教をしたでしょう。“黙らせようとする人々(10:48)”と立派で豊かな信仰をもっていたのか、そんなこととは関係なく、“私は信仰によって、主イエスの救いと解決に与りました”と私たちの様に説教したことでしょう。

週報

2010年 8月 15日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト
清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042